

頭の中の指 (1974)

LES DOIGTS DANS LA FETE

メディア 映画

ジャンル

製作国 フランス

色彩 Color

時間 105分

初公開日 1978/11/16

公開情報 フランス映画監督協会＝東京日仏学院＝アテネ・フランセ

【解説】

気の合った仲間のクリスとレオンは19歳。パン屋の丁稚のクリスは、親方には叱りつけられてばかり。仕事もヘビーで、終わると店の狭い自室でぐっすり眠り込む日々だ。一方のレオンは以前、自動車修理工だったが、現在は失業中の母親と二人暮らしの身。ある晩、行きつけのカフェでピンボールをして遊んでいた二人は、スウェーデンから来た可憐な娘リヴと知り合う。意気投合した三人は彼女の友人宅へ押しかけるが、彼女が17歳と聞いて驚く。クリスは同じ店で売り子として働くロゼットと付き合いはじめていた。労働青年のための寮で生活する彼女らのパーティに繰り出す二人組。リヴと別れて一週間後、クリスの部屋に彼女がやって来て、泊まる所がないので二、三日置いて欲しいとずかずか上がり込む。眠れぬ夜を過ごし、仕事に遅刻したクリスはくびになる。レオンとリヴはそれを聞いて、違約金を取る話を持ち出す。そこへ来たロゼットは、リヴの存在に不機嫌になるが、問題の解決が先決だ。相談の末、レオンの知人の組合員に知恵を借りて、親方に支払いを承知させる。祝杯をあげたが、クリスに抱きつくリヴを見て、ロゼットが憤りで呼吸困難に陥ってしまう。それを介抱するリヴ。まだ親方へ仕打ちのしたりないというレオンは、クリスの部屋に閉じ籠ってのハンストを提案、実行に移すが、そこへ店の新入りフランソワがやって来て……。トリュフォーの絶賛を受け、興行的にも成功を収めたドワイヨンの長篇第2作で、極めてラディカルな青春映画の逸品。スーパー16で撮られ35mmにブローアップされた。『ル・モンド』紙に載った記事をもとに書かれた脚本は台詞もごく自然に、70年代半ばの若者の沈滞したムードを描き出している。

【クレジット】

監督 ジャック・ドワイヨン Jacques Doillon

脚本 ジャック・ドワイヨン Jacques Doillon

フィリップ・ド・フランス

撮影 イヴ・ラファイエ Yves Lafaye

出演 クリストフ・ソト
オリヴィエ・ブスケ